

# 2014年度報告会

## 遊びとまち研究会 せんたプロジェクト

### 2014年度の活動 学校を支える仕組み

7月 子育て世代の交流の継続  
(手仕事サークルでつながり作り)

10月 被災地から学ぶ  
(避難所としての学校、そなえ  
ゲームWS)

11月 被災地とつながり、被災  
地をつなぐ(復興過程で子  
どもの力をどう継続させるか)

3月 被災地から学ぶ(学校  
と地域をつなぐツール作  
り・遊び場の現状調査)



### 手仕事サークルでつながり作り(7月)

- 太子堂ワークショップへの仙台・手芸サークルのみなさんに講師として子どもたちにタッセルづくりを覚えてもらう
- 太子堂ワークショップメンバーと交流
  - 学校との関係性については地域で差がある
  - 手仕事が被災後の母親のネットワークを強化する
  - 他のネットワークとの連携で「仕事」になる



### 避難所としての学校についての講演 (10月)

東六郷小学校の校長先生を講師:「東日本大震災を経験して」

- 世田谷地域区民防災会議(地域振興課との共催)
  - 想定外を想定する
  - 学校が避難所になる→過酷な現実を知る
  - 多様な人がいる→例:ボランティアな人とそうではない人
- 太子堂小学校での教員対象の講演
  - 教員間の日頃の人間関係の重要性
  - 教員には家庭がある→ストレス



## そなえゲームワークショップ体験:さまざまな人の立場に立つ(10月)

- 子育てや子どもに関心のある保護者、住民、出張所職員
  - 仙台発そなえゲームを体験する
  - シミュレーションゲーム・ワークショップ→さまざまな立場の人の視点から防災を考える



## 地域で学校を支える仕組みを担う3グループが南三陸で集まった(11月)

- 復興過程で子どもの力を継続させるには「交流」が大事



## 5年目を迎える被災地から学ぶ(3月)



1. そなえゲーム作成の背景を「にこにこの家」に聞く
  - 被災体験からツール作りへ
  - 震災前からの地域のネットワーク「東中田っ子ネットワーク」(高齢者から子どもまで)がヒント!
2. 遊び場現状視察「せんだい・みやぎネットワーク」
  - 5年目も移動式遊び場活動とお茶っ子飲み継続
  - 復興公営住宅では高齢者世帯が多い
  - 子どもの遊びを通じた親同士・地域の人つながり
  - 海岸公園冒険広場の再開はH30年(小学生は青年になってしまう!)

## 活動を通じた連携

- 被災地
  - せんだい・みやぎネットワーク(遊び場活動、仮設でのコミュニティ作り)
  - マートル・手芸サークル
  - にこにこの家(そなえゲーム)
  - 専門家・東北福祉大学(学校保健・学校防災)
  - 地域スクール・南三陸
- 世田谷
  - 太子堂と三宿の小・中学校、および関連団体
  - 太子堂出張所・・・WSから防災塾へ
  - 地域振興課

## 見えて来た課題・・・

- 学校が避難所となることの課題(先生と住民の役割分担)
  1. 子どもをどう守るか
  2. 教員の家族のこと
  3. ボランティアな人をどう増やすか
- 学校を支える地域の仕組みは重要(学校だけではできない)
  1. 地域で子ども達に伝えたいこと(地域の産業、伝統、つながり)は何か?
  2. 世田谷では・・・
- 子どもたちが力をつけるためには外との交流が重要で、それは被災直後よりしばらくたって、日常が戻ってきたときにも重要
- 心の傷は簡単には癒えない。直後は表現できない。時間がたった時にこそサポートが必要。特にお互いに支え合う(ピア・サポート)の重要性。

## 世田谷への提言(2)

### 学校と地域で子どもを守るために

3. 学校は防災における地域の拠点だが、先生だけでは運営できない→学校を支える地域の仕組みを日頃から強化しいざという時の役割分担を想定しておく
  - 地域の仕事や伝統を伝える場や親同士がPTA以外につながれる場の重要性
4. 学校におけるマニュアルのみに依存しない防災の考え方の醸成
  - 正常化バイアスを防ぐ
  - 「自分たちだけは大丈夫」「いざとなれば何とかなる」は×
5. 復興への子どもの参画
  - 同世代交流の重要性→地域と関わり続けるモチベーション

## 世田谷への提言(1)

### 防災とは備えだけではない！

### 復興過程の課題と解決策をまとめておくことの重要性

1. 時間の経過の中で、体験が風化していく。一方で、解決困難な問題が残る→どう継続して取組んでいくか
  - 生活再建が出来る人と出来ない人の差・・・第三者が関わり続けて溝が深まることを防ぐ
  - 被災前から存在した問題がより深刻化する・・・助けを求めていいという雰囲気を広げ、多様な支援者が連携して支える(相談の敷居を下げる)
  - 気持ちを仲間の中で吐露することで互いに癒されていく→時間や機会が重要
2. 「遊び場の効果」の広がりによって大人の意識が変わる！
  - 子どもが遊ぶ姿を見て、大人がつながり作りの重要性を再認識する側面がある
  - 場作りの面白さに大人が気づける(母親、父親、地域の遊び名人)

ご清聴ありがとうございました。



初年度に仙台に行った子どもたちも中学生になりました！